

## システム・情報部門学術講演会 2013 (SSI2013)

## 川上 浩 司\*

\* 京都大学 情報学研究科 京都市左京区吉田本町  
 \* Kyoto University, Yoshida Honmachi, Kyoto, Japan  
 \* E-mail: kawakami@i.kyoto-u.ac.jp

JL 0004/14/5304-0376 ©2014 SICE

システム・情報部門学術講演会（以下、SSI）は、2013年に大きく様変わりした。当部門の将来構想委員会からの提言や中期事業活動計画に含まれるキーワード（部会間の横串・若手交流・シナジー効果・創発・活性化・国際化）は、企画・事業委員会によって以下のスキームに具体化された。

- パラレルセッションを廃止して、全発表をシングルトラック 2 時間半のポスターセッションとする
- 各部会講演会やトップ国際会議ですでに発表された内容を再度発表することを奨励する
- 特集号は JCMSI で組む

キャッチフレーズは「トツテオキを宣伝できる場所」「アノヒトと喋れる場所」「オドロキに出会える場所」である。ポスター発表では研究の質が保てない、既発表でも良いとなると新規に発表される研究が少なくなる、などが当初は心配された。しかし結果的には、発表件数は前年度 131 件に対して 282 件（内、新規発表論文は 131 件 → 151 件で純増）、参加者は同様に 205 人 → 381 人（内、学生は 65 人 → 158 人で大幅増）となり、当初の心配は杞憂に終わった。すべての発表が聞ける、興味のある研究に絞れる、長時間のディスカッションができる、スタッフも参加できるという方式は、横串として部門の活性化に寄与したように思われる。

なお、特別招待講演としては、産業技術総合研究所の麻生英樹氏をお迎えして「Deep Learning と内部表現の学習」について、また立命館大学の川村貞夫教授をお迎えして「ロボット研究の新時代」についてお話しいただき、多くの聴衆を引きつけた。

さらに部門賞も、2013 年から再編された。部門賞選考委員会の世話によって、SICE の日英双方の論文集に掲載された論文や SICE の会誌で発表された記事の中から以下の受賞が決定し、SSI の技術交流会で表彰した。

**部門論文賞** Maximizing cascade of innovation on networks: T. Komatsu, H. Sato, and A. Namatame, JCMSI 6-2, 066/075, 2013

**部門技術賞** 駐車運転技量育成のための力覚呈示を用いた運転行動支援システム：廣川暢一，上杉直久，古郡了，北川朋子，鈴木健嗣，計測自動制御学会論文集 49-6, 602/611, 2013

また、プログラム委員会の世話によって、SSI での発表の中から以下の受賞が決定し、クロージングで表彰した。

**SSI best research award** 時系列データの変化点検出

と分節区間の共有によるノンパラメトリック人体運動モデリング：下坂正倫，守谷祐一，福井類，佐藤知正

**SSI 最優秀論文賞** 不便の益を実装するシステム設計のガイド：長谷部雄一，川上浩司，平岡敏洋，野崎敬太

**SSI 奨励賞**

- 長谷部雄一（京都大学）：不便の益を実装するシステム設計のガイド
- 荒木卓（京都大学）：習熟余地に着目したジェスチャによる個人認証システム
- 江上慎（オムロン（株））：「ものづくり」における社内 Wiki システムの導入効果と協業ネットワーク分析に基づく生産性改善の検討
- 早川将史（京都大学）：Haptic Interface to Encourage Preparation for a Deceleration Behavior Against Potential Collision Risk
- 山口拓真（名古屋大学）：走行履歴に基づく車の走行予測 - 貪欲法を用いたリアルタイム推定手法 -

SSI は、副部門長を実行委員長とし、各部会が現地実行委員会（2013 年の主幹はヒューマンマシンシステム部会）とプログラム委員会（同コンピューショナル・インテリジェンス部会）を引継ぎながら毎年運営される。今年は大きく実施方法の大枠を変えたため、走りながら実施方法の詳細を詰めてゆき、どうにか無事開催にこぎつけたという状況であった。両委員会のメンバーには大変なご苦勞をおかけしたが、結果としては変貌を遂げた部門大会を盛会裏に終えたこともあり、振り返ってみれば楽しい苦勞であった。これも、提言をまとめた将来構想委員会、それを実装した企画・事業委員会、そして何より参加いただいた皆様のお陰である。

今回の SSI2014 は 11 月 20 日～23 日に岡山大学での開催を予定している。「システム・情報といえば SSI」と呼ばれるようにしたいという目論みがある。2013 年はその第一歩であったと言われるように、2014 年の SSI にも、皆様には研究成果発表と技術交流の場として、ぜひふるってご参加いただきたい。

なお、SSI2013 は 11 月 18 日～20 日に琵琶湖畔のピアザ淡海で開催され、SSI2013 特集は JCMSI2015 年 1 号に掲載予定であることを申し添える。

(2014 年 1 月 24 日受付)